

2/28

## 長万部町教育功労・実践活動顕彰表彰式

### 平成28年度の受章者

◆社会教育顕彰〈団体の部〉  
 ・長万部町地域女性団体連絡協議会

町の青少年健全育成活動貢献  
 ・長万部俳句会  
 地域文化の振興・発展に貢献

### ◆児童生徒実践活動顕彰 〈団体の部〉

・長万部中学校女子卓球部  
 第46回北海道中学校卓球大会女子団体の部において第3位を獲得し、第47回全国中学校卓球大会へ出場



### ◆児童生徒実践活動顕彰 〈個人の部〉

・大谷 大斗(長万部中3年)  
 第44回北海道中学校柔道大会「男子81kg級」で第3位入賞

・中山 和香(長万部中2年)  
 北海道卓球選手権大会14歳以下女子シングルスで第7位入賞し、全日本卓球選手権大会へ出場

・福永 晴翔(長万部中1年)  
 第44回中学生作文コンクールにおいて「心、ふるえるとき」をテーマに、当時在住していた町の野球少年団での出来事を題材にした「監督がつたえなかったこと」(※下記に掲載)で北海道知事賞を受賞



「監督がつたえなかったこと」

長万部中学校1年 福永 晴翔

早くピッチャー交代を告げてほしかった。マウンドの上からちらちらと監督に目を向けるが監督はこつちを見ようともしない。6年生の春、所属していた少年野球チームで、それまでキャッチャーだった僕は、ピッチャーを命じられた。球の速さにはある程度自身があったので何とかなるだろうと思っていたが、現実とはそれほど甘くなかった。その年最初の練習試合でマウンドに上がった僕は、1つのストライクを取るのも大変だった。ランナーを出しては暴投の繰り返しで、次から次へとランナーがホームに入るのをぼうぜんと見つめていた。しかし、監督は決して僕を代えてはくれなかった。交代する選手はほかにいるのに、自分への情けなさと同時に、監督に対して怒りが込み上げてきた。ようやく試合が終わったときには、相手のスコアボードに27点が入っていた。監督はスコアボードを見ながら、「次の試合から一点ずつ減らせば、28試合目には完封できるぞ。」と、にこにこしながら僕に声をかけた。僕はむっとした。この試合だけでも心が折れそうなのに。いつのまにか、自分のピッチングをすべて監督に押し付けて、僕は怒りと悔しさと惨めさが混じったぐちゃぐちゃの気持ちで家に帰った。時間がたつにつれ、少しずつ冷静になり、今日のことを思い出してみた。なぜ、監督は途中で僕を交代させなかったのか。なぜ、次の試合で26点取られてもいいと言ったのか。監督は僕に何を伝えたかったのか、自分なりに考えてみた。監督は、「試合投げ切ることの難しさを実感させたかったのではないだろうか。そして、次の試合も投げきるといふことは、僕に期待しているのではないだろうか。そう考えると、さつきまでふてくされていた自分が恥ずかしくなってきた。次の日から、近くの公園で投球練習を始めた。練習の時も、チームの友達より多く走るようにした。少しずつ結果も伴ってきた。努力で結果が変わるのも楽しくなってきた。小学校最後の試合、僕は相手チームをノーヒット・ノーランで抑えることができた。監督は、今度は無言でにっこり笑っていた。中学生になり、小学校のころよりもさらに野球が好きになった自分がある。目標に向けた努力の大切さを知った自分がある。監督、あの日ありがとうございます。」

3/10

## 黒須幹男さんに 知事より北海道善行賞

平成28年度の交通安全功労者として、交通安全指導員の黒須幹男さんに、知事より北海道善行賞が贈られ、長万部町長より表彰状が伝達されました。

黒須さんは、交通安全指導員を委嘱されて以来、各種交通安全運動や町内の行事、登下校時の児童生徒の保護など、奉仕の精神をもって、積極的に地域の交通事故防止活動に尽力されたことにより表彰されました。

